



つき たいよう 月や太陽が、かさをかぶったようになるのはなぜ

じょうくう けんそううん 上空に巻層雲があるときになる

つき たいようのまわりに、しろ びかり わが、できることがあります。このような輪をそれぞれ、「月のかさ」、「日のかさ」とよんでいます。

このようなかさは、そら たか ところ けんそううん(すじ雲)があるときにできます。巻層雲は、ろっかくちゅう こおり のついでできていて、つき たいよう ひかり ろっかくちゅう こおり のつづをとおるときに、ひかり せつ お ま せつ で ひかり あつ ぶぶん つき たいようのまわりに、輪のようになって見えるのです。

ふつう、その輪は明るく、しろ びかり 多いのですが、ひかり せつ おおのくっ折が多いときは、にじのように見えます。

つぎ ひ あめ 次の日は雨になることが多い

けんそううん で つき たいようのまわり、つぎ ひ あめ ぶが多いといわれています。じょうくう けんそううんがあるときは、ていきあつ まえのつづをとおるときに、つぎ ひ あめ ぶが多いといわれています。それで、つぎ ひ あめ ぶが多いのです。(監修・村山 貢司)

